

学校関係者評価報告書

愛媛県立川之江高等学校(全日制・定時制)

学校番号(1)

評価実施日		令和3年2月22日(月)	
委員	氏名	所属等	備考
	石川 学	元PTA会長	
	高橋英理子	PTA会長	
	矢野 和孝	定時制教育振興会事務局長	
	篠原 和彦	四国中央市川之江北中学校長	
	石川 勝司	四国中央市川之江南中学校長	

評価・提言等	提言等に対する改善方策等
<p>【学習指導・進路指導について(全日)】</p> <p>○ICTの活用や、生徒が主体的に活動する場面の設定など、学校全体で授業改善に本気で取り組んでいることが伝わってきた。</p> <p>○進路状況を見ると、もうひと伸びしないものかと思う。生徒の間に、上を目指そうとするよりも自分に行ける進路でよいといった感覚があるのではないか。</p> <p>○クラスの中で、進路が早期に決まる(専門学校、推薦等)生徒が多いので、一般入試を目指す生徒のモチベーションの維持が困難だと聞いた。</p>	<p>○受験対策だけに偏らない、生徒の知的好奇心を引き出す、魅力的な授業をさらに心掛けたい。</p> <p>○基礎学力の不足から成績が伸び悩み、それが自信のなさや学ぶ意欲の低下につながっている。学びなおしの機会を確保したい。</p> <p>○合格がゴールではないこと、将来のために実力を付ける必要があることを認識させ、最後まで努力する雰囲気を保ちたい。</p>
<p>【中高の連携について(全日)】</p> <p>○中学校において、高校生の活動発表会や高校教員の出前授業などの新たな行事が実施されたことで、中学生が喜んでいて。</p> <p>○進路説明会のプレゼンテーションも改善され、「川高に行きたい」という生徒を増やそうとする意欲が感じられた。</p>	<p>○出前授業は日程の関係で1校しか実施できなかったが、来年度はさらに多くの中学生にアピールしたい。</p> <p>○中学生が高校生活に求めるものを分析し、より効果的に本校の魅力を伝えられるようにする。</p>
<p>【部活動のアピールについて(全日)】</p> <p>○部活動を理由として他校を志望する中学生が多い。専門的な指導を受けられる、特色のある部活動の魅力を、もっと中学生にアピールすべきではないか。</p>	<p>○各部の活動内容が詳しく分かるようにホームページで発信するなど、広報の仕方を工夫したい。</p>
<p>【学校と保護者との連携、保護者対応について】</p> <p>○アンケートで、保護者と教員の連携に関する評価が低い。懇談会以外に、普段の生活に関する情報が得られる機会がないという保護者の声もある。</p> <p>○親子ともに考え方が幼く、自分に対する厳しさが足りない家庭も増えている中で、安易な方向に流れないような指導が必要である。</p>	<p>○配布文書等が保護者に届いていない現状もある。メール配信システムの見直しも含めて、情報が確実に伝わるようにしたい。</p> <p>○保護者には、適切な距離感を保ちながら組織として対応し、学校の方針を説明して納得してもらう。</p>

評 価 ・ 提 言 等	提言等に対する改善方策等
<p>【川之江先輩塾について】</p> <p>○現在は、大学の教員と企業関係者で構成されているが、ミュージシャンや声優、アニメーターなど、様々な分野で活躍する卒業生に生徒の前で話してもらえば、生徒の興味や関心がより高まるのではないか。</p>	<p>○川之江先輩塾の中心になってくださっている方が大学と地元企業の関係者のため、それに応じた講座を実施しているが、今後、他の分野の同窓生にも協力していただけるよう情報を収集したい。</p>
<p>【定時制課程について】</p> <p>○中学校でどのように指導すべきか試行錯誤した生徒たちが、合格という成功体験によって落ち着き、成長している。</p> <p>○入学後に自信を取り戻した生徒、行ってよかったという生徒を見ると、定時制課程が市にとって必要だと感じている。</p>	<p>○不登校を経験した生徒や全日制を中退した生徒、特別な支援を必要とする生徒、家庭環境が困難な生徒など多様な生徒がいるが、中学校や家庭との連携やアセスメントシートを使い、生徒一人一人の実態を把握し、具体的な教育支援・配慮を実施、自己肯定感や自己有用感を高めていきたい。</p>